

アグリ筑西 2023年 秋特別号

まだまだ暑い日が続きますので、
体調管理に気をつけましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
筑西地域農業改良推進協議会 発行
Tel : 0296(24)9206
Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑



シリーズ「農業経営者に訊く」 Vol.3

野口真一さん (筑西市 スイカ+トマト+葉物経営)

野口さんは、2006年にUターンで就農後、ハウス栽培でスイカ・トマトの輪作体系をスタートさせました。2012年から農協出荷に切り替え、2013年からハウスレタス栽培を開始しました。現在、こだま西瓜部会の青年部長として活躍されています。

●経営の概況について教えてください。

こだまスイカ64aとトマト52aを輪作体系で作付けしています。労働力は私のほかに妻と両親でしたが、昨年8月から外国人技能実習生を一人受け入れました。そのため、秋冬作として、ハウスレタス12aと秋冬ハクサイ40aを新たに栽培しました。また、今年はこだまスイカの露地トンネル栽培を18aで試験的に導入しました。こだまスイカは「スイートキッズ」が主力品種ですが、種子の小さい品種「ピノ・ガール」も13a作付けしました。トマトは「アニモ」を栽培しており、青年部の現地検討会や勉強会に参加しながら、収量の向上に努めています。スイカ、トマトともに近年単価がよく、安定した経営ができています。



スイカの栽培状況

●経営における課題は何ですか。

両親の高齢化とともに年々労働力に余裕がなくなってきたことで、外国人技能実習生を受け入れましたが、作業者に栽培技術の差があって、管理がうまくできていないことがあります。また、近年ハウス資材の高騰で経費が上がっていることが問題です。これらの問題を克服しながら、効率的に経営していくことが、これからの課題です。



トマト現地検討会の様子

●今後の取り組みについて教えてください。

今年の11月にもう一人外国人技能実習生を受け入れるため、今後パイプハウスを増設するとともにスイカの露地トンネル栽培についても面積を拡大しようと考えています。常時労働力を取り入れたことで、年間作業の平準化が必要なので、ハクサイやレタスなどを栽培することで調整したいと考えています。



スイカの露地トンネル栽培状況

貴重なご意見を訊かせいただきありがとうございました。これからも農業経営者として地域を牽引して行ってください。

特集 秋の長雨・台風への備え！ ～対策を徹底しましょう～

台風への事前対応策



茨城県農業総合センター資料から引用。
令和5年8月10日掲載「気象災害対策No.6」
←詳しくはHPをチェック！

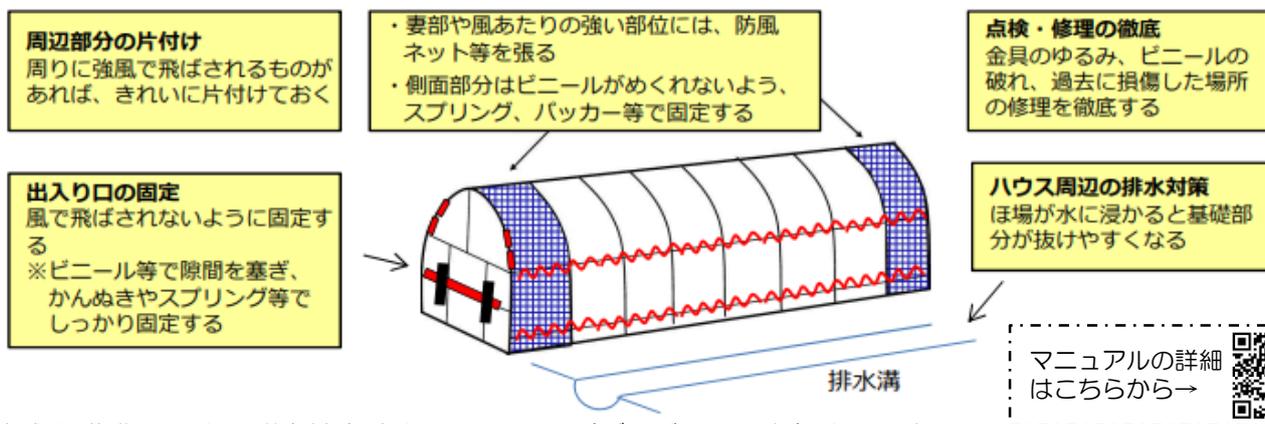
(1) 全作物共通

- ・圃場から速やかに排水ができるよう、明渠の清掃、補修を行う。
- ・収穫物の保管場所の浸水被害が想定される場合は、安全な場所へ移動しておく。
- ・暴風雨等の最中は危険なので、圃場、施設の見回りは行わない。

(2) 園芸施設

- ・ハウス周辺の排水溝や、ハウスの谷樋、縦樋を清掃しておく。
- ・ハウスの周囲を片付けておき、強風により物が飛散しないようにしておく。
- ・燃料タンクやガスボンベ等をしっかりと固定する。
- ・被覆材の破損や剥離、出入口の破損等で風が吹き込み、ハウスが破損するのを防ぐため、被覆材の破れ、ハウスバンドや被覆材の取り付け金具の緩みを点検し、必要な補修、調整を行う。
- ・ボルトやブレースを点検し、緩んでいれば締め直す。
- ・停電に備え、手動換気やカーテンの手動開閉等の作業内容の手順を確認しておく。
- ・台風襲来直前には、出入口を密閉し、換気扇を稼働させてハウス内を減圧する。
- ・強風で倒壊する危険がある場合は被覆材を除去する。

<参考> 台風接近に備えたパイプハウスの対策事例



茨城県 農業用ハウス災害被害防止マニュアル（ダイジェスト版）から一部引用

(3) 野菜

- ・強風害・潮風害のおそれのある場合には、べたがけ資材、寒冷紗等で被覆する。
- ・支柱やネット、誘引紐を点検して確実に固定し、必要に応じて補強する。
- ・露地の果菜類では、不要な茎葉を摘除して風の影響を抑え、収穫できる実は全て収穫しておく。
- ・ネギでは、倒伏防止のためあらかじめ土寄せを行う。

(4) 花き

- ・露地においては、倒伏による曲がり等が発生しやすいので、支柱・フラワーネットの点検、補強、または土寄せ等を行う。
- ・収穫可能な花は全て収穫する。

(5) 果樹

- 多目的防災網や防風ネット、果樹棚支柱を点検し、補修、補強を行う。
- 棚栽培では、風による上下動を抑えるため、棚面の随所に支柱による突き上げと針金による下方への誘引を行う。
- 立木栽培では、しっかりとした支柱を立てて結束し、枝折れや倒伏を防止する。
- ビニールハウスでは、ビニールの緩みや破れ、隙間の点検、補修を行う。
- 簡易被覆ハウス（雨よけ栽培）では、強風により破損する可能性が高い時は、被覆を除去する。
- 収穫可能な果実はできる限り収穫する。但し薬剤散布から収穫までの経過日数に注意する。

(6) 水稻・大豆

- 排水路の詰まり等がないか点検する。
- 水田では、大雨の前に十分減水し、一定量以上の水かさになると落水する対策を講じる。

適期刈り取りで良質米の生産を!

早刈りは千粒重が軽くなり、収量を低下させるとともに、玄米への青未熟粒の混入割合が増え、落等要因となることがあります。逆に刈り遅れは胴割粒などの被害粒や茶米・着色粒の発生が増え、早刈りと同じく落等要因になりえます。適期収穫を心がけましょう。

圃場で直接籾の色（帯緑籾率）を確認して適期収穫に努めて下さい。**収穫適期は帯緑籾率が10%（籾水分25%）になってから5日間**です。

※今年の県内定点調査圃場では、平年より出穂期が早まっており成熟期も早まる見込みです。特に、4月に移植した圃場が早まっていますので、刈り遅れないよう注意しましょう。

コシヒカリの帯緑籾率と成熟期前日数

帯緑籾 (%)	成熟期前日数
55	11
30	8
25	6
20	4
15	2
12	1
10	成熟期(収穫適期)



＜飼料用米の場合＞

飼料用米は、主食用米のような品質を求められないため、コスト低減のため、刈り取りを成熟期後2週間～約1ヶ月後に遅らせ、圃場で籾水分を低下させる「**立毛乾燥**（稲を圃場で籾水分17%程度まで低下させる）」が**可能**です。また、立毛乾燥は他品種との作期競合を回避する場合にも活用できます。

（注）**10月中旬頃までが目安**。刈り遅れ過ぎると減収（倒伏・穂発芽・鳥害）。

かんしょ生産拡大の推進について

茨城県では、昨年「第2回茨城県総合計画」を策定し、儲かる農業の実現に向け、国内外で需要の高いかんしょの生産拡大を推進しています。県西農林事務所においては、プロジェクトチームを立ち上げ、生産拡大や収量・品質向上の推進に取り組んでいます。

筑西普及センター管内のかんしょ生産においては、生産者数・面積ともに着実に増加している一方で、肥沃圃場でのつるぼけによる低収量や、荒廃農地再生圃場での低品質等が問題となっています。そのため普及センターでは、研修会や現地検討会を開催し、収量確保と品質向上に向けた栽培技術の支援を実施しています。



【かんしょ生産拡大研修会】
耕作放棄地等を再生するための支援策やJA北つくばの取組を紹介しました。



【かんしょ栽培現地検討会】
栽培における省力化技術や害虫防除による高品質生産の取組を紹介しました。

かんしょの葉を食害するチョウ目幼虫に注意！

かんしょは病害虫防除の手間が他品目に比べ少ないものとして挙げられますが、この時期に葉を食害するチョウ目幼虫は芋の生長や品質を低下させる可能性があるため注意が必要です。その中でも、8月～9月にかけて発生が拡大するものが「ナカジロシタバ」です。防除しないまま放置すると、葉がほとんど残らない程に食害されてしまうため、適期防除を行いましょう。

【適期防除目安】

- ①体長が0.2～3cm程度の幼虫を確認した時
- ②被害葉面積率が25%以上食害された時



ナカジロシタバの幼虫。茎や若葉に多い。



被害葉面積率25%程度の食害を受けた草姿。

